

「ある/いる」の「類義表現」としての「結果の状態のテイル」

——日本語母語話者と中国語を母語とする学習者の使用傾向を見て——

陳 昭 心*

キーワード：結果の状態のテイル，ある/いる，類義表現，移動，「出現文」

要 旨

本稿は、「日本語教育文法では学習者の母語の感覚とズレが生じやすいところに焦点を置くべきである」という考えのもとに、日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者の「結果の状態のテイル」と「ある/いる」の使用傾向の違いに注目し、どのような種類の「結果の状態のテイル」が「ある/いる」との使い分けで問題になるのかを提示する。

日本語母語話者105名と中国語を母語とする日本語学習者120名に対する質問紙調査を行ったところ、対象場面は3つのグループに分かれた。すなわち、①日本語母語話者と中国語母語話者が両方とも「ある/いる」を使用する場面（例えば、「冷蔵庫を開けたら……」という場面では「ケーキがある」）、②両方とも「結果の状態のテイル」を使用する場面（例えば、先生の研究室から明かりが見えている場面では「(先生は) いらっしゃるみたいね、電気がついているから」）、③日本語母語話者が「結果の状態のテイル」を使用するのに対し、中国語母語話者は「ある/いる」を使用する場面（例えば、「お客さんが来ている」に対して「お客さんがいる」、「財布が落ちている」に対して「財布がある」）、の3つのグループである。

③のような日中母語話者間で使用傾向が異なった場面については「移動を表す動詞の使用」と「中国語では隠現文の中の出現文でも表現できること」の2つの特徴が挙げられる。「出現文」は人や事物の出現を表す。人や事物の「出現」の事象が結果的に「存在」になると捉えることができるため、中国語を母語とする日本語学習者は存在を表す「ある/いる」を使用しがちであると考えられる。このことから、中国語を母語とする日本語学習者に教える際は、「移動」を表す「結果の状態のテイル」が「ある/いる」の「類義表現」として取り扱われてもよいと考えられる。

1. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者が、「結果の状態のテイル」を使用すべきところで「タ形」を使用してしまうことが多いことはよく指摘されている（張2001，許2005）。例えば、昇降口で

*CHEN Jaushin：広島大学大学院生

靴を履き替えている場面で、友人の靴下に穴があいていることに気付いたとき、「靴下が破れたよ」と言ってしまうのである。その理由の1つとして、日本語の「テイル形/タ形」と中国語のアスペクト助詞「着 (zhe)/了 (le)」との対応関係が一致していないことが挙げられている。日本語の「結果の状態のテイル」は中国語の「着」にあたり、「タ形」は中国語の「了」にあたることが多い。しかし、「テイル形」は中国語の「了」にあたることもある。したがって、学習者は中国語の語感で「了」を使用すべきであると思った場面で、つい「テイル形」を使用せずに「タ形」を使用しがちであるとされている。

確かに、中国語の語感で考えた場合、中国語母語話者にとって日本語の「テイル形/タ形」の使い分けは迷いやすいところである。しかし、「タ形」なのか「テイル形」なのかを迷うことまでには至らず、「ある/いる」さえ使用すれば間に合うと考える場合もある。

【例1】(未央が所属の事務局に入っていたら)

三浦「おー未央 客がきてるぞ 客が」〈『ハンサムな彼女』1, p. 281〉

上記の場面では、中国語の「有客人」(「有」いる、「客人」お客さん)の発想から日本語に直訳して「お客さんがいる」と表現すればいいように思われるが、なぜ日本語ではわざわざ「結果の状態のテイル」で表現するのだろうか。このように、「ある/いる」は「結果の状態のテイル」と似ている場合があり、この意味では両者は「類義表現」と言えるだろう。しかし、日本語教育で、「結果の状態のテイル」の「類義表現」として取り扱われている項目は「テアル」のみにとどまっているようである。その理由はおそらく「～が自動詞+テイル」「～が他動詞+テアル」のように自他動詞と「テイル/テアル」の正確な組み合わせを習得してほしいという目的にあるのではないかと考えられる。一方、例1のような場面では「客がいる」と言ってもほぼ同じ事実を表し、意味も通じるので、誤用とは言えず通常は訂正されないであろう。

しかし、このような言語間のズレが、通常見えない日本語の特徴を考えるキーポイントになるかもしれない。そこで、本稿では、「日本語教育文法では学習者の母語の感覚とズレが生じやすいところに焦点を置くべきである」という立場に立って、日本語母語話者と学習者の使用傾向に注目する。それを通して、「結果の状態のテイル」を教えるときに着目すべき点の1つを提示する。

2. 「結果の状態のテイル」と「ある/いる」の関わり

2-1. 先行研究

そもそも、「結果の状態のテイル」と「ある/いる」は全く関係がないとされてきたわけではない。「ある/いる」は「存在」の意味を表す動詞であり、先行研究でも、「テイル」と「存在」との関わりについて述べられている(藤井1966, 国広1967, 寺村1984など)。「結果の状態のテイル

ル」に焦点を置けば、例えば、寺村（1984）は「結果の状態のテイル」について、ある過去（以前）のできごとが終わって、その結果（痕跡）が物理的にあるいは心理的に、現在存在するということを意味すると述べている。野村（2005）は、いわゆる結果の状態を表す「テイル」の文では、「お腹がすいただろう。鍋にイモが煮えているよ」のように「二格」で場所を表すことから、「存在様態文」とのつながりを指摘している。

また、中国語の「存在文」の発想から日本語の構文と意味を考えて「日本語の様態存在表現」や「日本語の存在構文」について論じている先行研究もある。張（1991）は、中国語の様態存在構文「地上，到处都散落着貝殼」を日本語で表現すると、「下には、貝がらがここに散っていた」のようになることを挙げて、日本語の「存在場所に 存在主体が 動詞テイル」という構文も「様態存在表現」と見なしている。于（2006, 2007）も、日本語の「LにNPがVている」のような構文を、「日本語の存在構文」と述べている¹。「日本語の存在表現」を取り扱っている張（2006, 2008）は、さらに範囲を広げて、日本語の「向かい側の川土堤を農婦が一人、鋤をかついで歩いていた」のような動作の進行を表す「存在場所を 存在主体が 動詞テイル」の構文も存在表現の1つとして挙げている。

このように、日本語のテイルの用法を考える上でも、中国語との対照という観点からも、「結果の状態のテイル」を存在表現「ある/いる」の「類義表現」として取り扱う可能性があることが示唆されている。

しかし、例1のような「客が来ている」は、移動の結果を表すが、「様態存在」とは考えにくい²。構文は「存在場所に 存在主体が 動詞テイル」にあてはまるが、中国語に訳すると「(事務所裡) 来了客人」になり、中国語の「存在文」に属さない。また、「客が来ている」の「来ている」は「動作の進行」ではなく「結果の状態」である。これらのことから、「客が来ている」のような構文は存在表現としての位置づけと中国語の関連についてまだ検討する余地があると考えられる。

2-2. 学習者の使用傾向

一方、陳（2007）は、日本語母語話者と日本にいる中国語母語話者の留学生を対象として、質問紙法の調査を行った。その結果、「道端で財布を発見した場面」「帰宅したら見知らない靴が並んでいた場面」「届いている手紙を母に渡す場面」では、日本語母語話者が「結果の状態のテイル

¹ 于（2006）では「存現句（存現文）」という用語が使われているが、引用されている用例を見ると、「存在文」の意味合いで使用されていると思われる。

² 先行研究では、「存在場所に 存在主体が 動詞テイル」という構文になっている限り、「様態存在」に相当するとされている。しかし、「お客さんがどのように存在するか」という問いに対して、「立っている」「座っている」は理解できるが、「来ている」はどうも腑に落ちない。

ル」を使用しているのに対して、中国語を母語とする日本語学習者は「夕形」や「ある/いる」を使用していることがわかった。そして、上記の3つの場面は「出来事の発生」を表現するため「結果の状態のテイル」を使用すると説明している。

しかし、すべての「結果の状態のテイル」が「ある/いる」の使用と競合するというわけではない。そこで、本研究では、「教育的にはどこに焦点を置くべきか」「日中両言語における相違点はどこか」ということをより明確にするため、どのような種類の「結果の状態のテイル」が「ある/いる」との使い分けで問題になるのかを検討する。具体的には、陳(2007)をふまえた上で、中国語を母語とする台湾人日本語学習者を対象として、対照言語学や教育文法における着目すべき点を絞るための調査を行う。調査の目的は、どのような種類の「結果の状態のテイル」が「ある/いる」との使い分けで問題になるのかを提示することである。

3. 調査

3-1. 調査の概要

調査は2007年5月下旬から6月にかけて実施された。日本語母語話者105名と台湾人日本語学習者120名(日本語能力試験3級レベル以上)を対象として、提示した場面に発話を記入してもらった。以下に、本稿の論題と関わりのある10場面とその結果を述べる³。

3-2. 調査の結果

結果に基づき、対象の10場面を大きく分けると、①日本語母語話者も中国語母語話者も「ある/いる」を使用している場面と、②日本語母語話者も中国語母語話者も「結果の状態のテイル」を使用している場面、そして③日本語母語話者が「結果の状態のテイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者が「ある/いる」を使用している場面の3つのグループになる。

グループ①日本語母語話者も中国語母語話者も「ある/いる」を使用している場面

【場面1】あなたは学校の駐車場で不審者を見かけました。学校の警備員に伝えます……

あなた(警備員に):「_____」

³ 日本語母語話者は主に広島大学の学部生。台湾人日本語学習者は台湾の2つの大学の学部2年～4年生(主に日本語専攻)。日本語母語話者に24場面、中国語母語話者に23場面を提示した。中国語母語話者への場面の叙述は中国語で提示された。

表1 場面1の調査結果⁴

表1	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	0	2 (1.7%)	1 (3.0%)	0	1 (2.9%)
「タ形」	0	2 (1.7%)	0	2 (3.8%)	0
「いる/いた」	91 (86.7%)	97 (80.8%)	24 (72.7%)	44 (84.6%)	29 (82.9%)
「見た」系	7 (6.7%)	11 (9.2%)	6 (18.2%)	3 (5.8%)	2 (5.7%)
その他	7 (6.7%)	8 (6.7%)	2 (6.1%)	3 (5.8%)	3 (8.6%)

【場面2】あなたは帰宅後、おなかがすいたので、冷蔵庫を開けました……

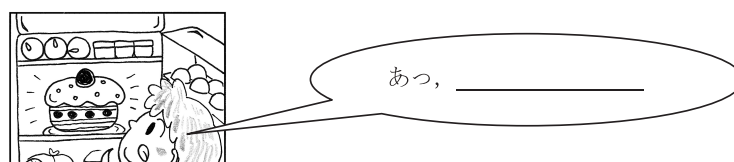
図1 調査で用いた図(場面2)⁵

表2 場面2の調査結果

表2	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	2 (1.9%)	2 (1.7%)	1 (3.0%)	0	1 (2.9%)
「タ形」	0	1 (0.8%)	0	1 (1.9%)	0
「ある/あった」	59 (56.2%)	47 (39.2%)	16 (48.5%)	19 (36.5%)	12 (34.3%)
「ケーキ」系	31 (29.5%)	46 (38.3%)	10 (30.3%)	21 (40.4%)	15 (42.9%)
その他	13 (12.4%)	24 (20.0%)	6 (18.2%)	11 (21.2%)	7 (20.0%)

場面1では、日本語母語話者も中国語母語話者も「いる」を使用している傾向が見られた。場面2でも、日本語母語話者も中国語母語話者も「ある」あるいは名詞の「ケーキ」を使用している。場面1と2は「ある/いる」の使用にギャップがないグループ①に入る。

グループ②日本語母語話者も中国語母語話者も「結果の状態のテイル」を使用している場面

【場面3】あなたは日曜日に友人と学校へスポーツの練習に行ったとき、先生の研究室からあかりが見えて……

友人：「先生、いらっしゃるのかな？」

⁴ 表中のJは日本語母語話者を、Cは中国語母語話者を表す。1級/2級/3級はそれぞれ日本語能力試験の合格級である。「自/他動詞+ていた」や「自/他動詞+である」の回答は「テイル形」に含めて合計した。

⁵ 調査で用いた図1～3は足立・梅田・亀田・齋藤・齊藤・鶴田(2004)『絵で導入・絵で練習』凡人社より引用。

あなた：「みたいだね、電気が_____」

表3 場面3の調査結果

表3	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	105 (100%)	97 (80.8%)	30 (90.9%)	45 (86.5%)	22 (62.9%)
「タ形」	0	4 (3.3%)	1 (3.0%)	0	3 (8.6%)
「ル形」	0	7 (5.8%)	0	2 (3.8%)	5 (14.3%)
「テ形」	0	3 (2.5%)	1 (3.0%)	1 (1.9%)	1 (2.9%)
「ある」	0	1 (0.8%)	0	1 (1.9%)	0
その他	0	8 (6.7%)	1 (3.0%)	3 (5.8%)	4 (11.4%)

【場面4】あなたは家の前でかぎを差し入れようとしたところ……

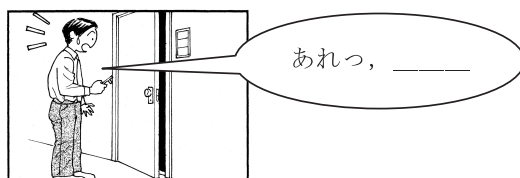


図2 調査で用いた図（場面4）

家に入ったら、見知らぬ人が部屋の中を物色しています……

あなた：「_____」

表4 場面4（前半部）の調査結果

表4	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	98 (93.3%)	52 (43.3%)	22 (66.7%)	21 (40.4%)	9 (25.7%)
「テイナイ形」	3 (2.9%)	7 (5.8%)	3 (9.1%)	4 (7.7%)	0
「テ形」	0	1 (0.8%)	1 (3.0%)	0	0
「タ形」	0	10 (8.3%)	2 (6.1%)	3 (5.8%)	5 (14.3%)
「ナカッタ形」	0	5 (4.2%)	2 (6.1%)	3 (5.8%)	0
「ル形」	0	3 (2.5%)	0	0	3 (8.6%)
「ナイ形」	0	5 (4.2%)	0	2 (3.8%)	3 (8.6%)
その他	4 (3.8%)	37 (30.8%)	3 (9.1%)	19 (36.5%)	15 (42.9%)

場面3では、日本語母語話者も中国語母語話者も「ついている」のような「テイル」を使用している傾向が見られた。場面4には前半部と後半部があり、本稿では関わりがあると判断した前半部の結果のみを提示する。この場面では、日本語母語話者が「開いている」のような「テイル」を使用している傾向が見られた。中国語母語話者は「おかしいな」のような「その他」の表

現を使用している以外に「テイル」も多く使用している。場面3と4は「結果の状態のテイル」の使用にギャップのないグループ②に入る。

グループ③日本語母語話者が「結果の状態のテイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者が「ある/いる」を使用している場面

【場面5】放課後、家に帰ると……

あなた：「ただいま。（玄関に見たことのない靴がある）」

お母さん：「（玄関に迎えてきて）お帰り。」

あなた：「お客さん_____」

お母さん：「うん，お父さんの友達よ。」

表5 場面5の調査結果

表5	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	92 (87.6%)	4 (3.3%)	3 (9.1%)	0	1 (2.9%) ⁶
「タ形」	0	13 (10.8%)	3 (9.1%)	5 (9.6%)	5 (14.3%)
「ル形」	0	5 (4.2%)	0	1 (1.9%)	4 (11.4%)
「いる/いた」	3 (2.9%)	60 (50.0%)	18 (54.5%)	27 (51.9%)	15 (42.9%)
「いらっしゃる」	1 (1.0%)	19 (15.8%)	5 (15.2%)	8 (15.4%)	6 (17.1%)
「いらっしゃった」	0	4 (3.3%)	1 (3.0%)	3 (5.8%)	0
その他	9 (8.6%)	15 (12.5%)	3 (9.1%)	8 (15.4%)	4 (11.4%)

【場面6】あなたが郵便受けをのぞいたら、お母さん宛の手紙が一通……。あなたはそれを持ってお母さんに声をかけて……

あなた（お母さんに）：「お母さん，手紙が_____」

表6 場面6の調査結果

表6	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	100 (95.2%)	3 (2.5%)	3 (9.1%)	0	0
「タ形」	2 (1.9%)	17 (14.2%)	6 (18.2%)	8 (15.4%)	3 (8.6%)
「ある/あった」	2 (1.9%)	88 (73.3%)	21 (63.6%)	40 (76.9%)	27 (77.1%)
「ル形」	0	5 (4.2%)	2 (6.1%)	2 (3.8%)	1 (2.9%)
その他	1 (1.0%)	7 (5.8%)	1 (3.0%)	2 (3.8%)	4 (11.4%)

⁶この1名の学習者は、「いている」を使用している。

場面5と6では、日本語母語話者が「来ている」のような「テイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者は「ある/いる」を多く使用している。この使用傾向は、日本語能力のレベルの違いにかかわらず認められる。つまり、これらの場面では、レベルを問わず、学習者は「ある/いる」の使用傾向が強かったと言える。

【場面7】あなたが友達と道を歩いていたら、前に……

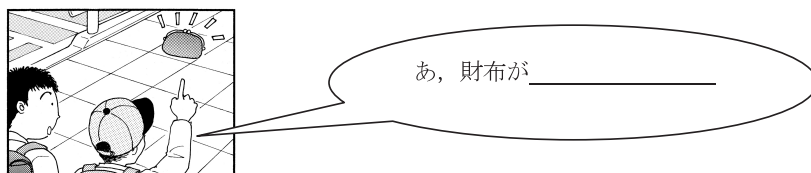


図3 調査で用いた図（場面7）

表7-1 場面7の調査結果（吹き出しに「財布が」の提示なし）

表7-1（提示なし）	J53名	C61名	C1級19名	C2級27名	C3級15名
「テイル形」	40 (75.5%)	4 (6.6%)	4 (21.1%)	0	0
「タ形」	0	11 (18.0%)	0	8 (29.6%)	3 (20.0%)
「ある/あった」	0	19 (31.1%)	4 (21.1%)	9 (33.3%)	6 (40.0%)
「財布」系	10 (18.9%)	12 (19.7%)	6 (31.6%)	4 (14.8%)	2 (13.3%)
「誰か～タ」系	0	4 (6.6%)	1 (5.3%)	1 (3.7%)	2 (13.3%)
その他	3 (5.7%)	11 (18.0%)	4 (21.1%)	5 (18.5%)	2 (13.3%)

表7-2 場面7の調査結果（吹き出しに「財布が」の提示あり）

表7-2（提示あり）	J52名	C59名	C1級14名	C2級25名	C3級20名
「テイル形」	51 (98.1%)	8 (13.6%)	4 (28.6%)	2 (8.0%)	2 (10.0%)
「タ形」	0	16 (27.1%)	3 (21.4%)	8 (32.0%)	5 (25.0%)
「ある/あった」	0	20 (33.9%)	7 (50.0%)	11 (44.0%)	2 (10.0%)
「ル形」	0	7 (11.9%)	0	0	7 (35.0%)
「誰か～タ」系	0	1 (1.7%)	0	1 (4.0%)	0
その他	1 (1.9%)	7 (11.9%)	0	3 (12.0%)	4 (20.0%)

場面7は道端で財布を発見した場面である。被調査者を2つのグループに分けて、1つのグループには「財布が」の提示なしの吹き出しに回答してもらい、もう1つのグループには「財布が」の提示ありの吹き出しに回答してもらった。「財布が」の提示がない場合は、日本語母語話者が「財布が落ちている」という「テイル」や名詞の「財布」を使用している。それに対して、

中国語母語話者は名詞の「財布」を使用している他に、全体的に「財布がある」の使用が「テイル」より多かった。「財布が」の提示がある場合、つまり述部の動詞を求められた場合は、日本語母語話者がほぼ全員「テイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者は「ある」の使用が「テイル」より多かった。レベル別に見ると、1級の学習者でも「ある/いる」の使用傾向が強かったと言える。

【場面8】あなたが電話に出たら、それはお母さんへの電話でした。あなたは相手の方に待って
 いただいて、

あなた（お母さんに）：「お母さん、_____」

表8 場面8の調査結果

表8	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	3 (2.9%)	1 (0.8%)	0	0	1 (2.9%)
「タ形」	0	5 (4.2%)	1 (3.0%)	4 (7.7%)	0
「ある/あった」	0	13 (10.8%)	2 (6.1%)	5 (9.6%)	6 (17.1%)
「電話」系	100 (95.2%)	88 (73.3%)	30 (90.9%)	38 (73.1%)	20 (57.1%)
「ル形」	0	2 (1.7%)	0	2 (3.8%)	0
その他	2 (1.9%)	11 (9.2%)	0	3 (5.8%)	8 (22.9%)

【場面9】あなたは得意先から社長への電話を受けて……

得意先（電話で）：「〇〇と申します。社長はいらっしゃいますか。」

あなた（電話で）：「少々お待ちください。」

あなた（社長に）：「社長、〇〇さんから電話が_____」

表9 場面9の調査結果

表9	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	74 (70.5%)	12 (10.0%)	2 (6.1%)	6 (11.5%)	4 (11.4%)
「タ形」	6 (5.7%)	28 (23.3%)	14 (42.4%)	10 (19.2%)	4 (11.4%)
「テ形」	0	2 (1.7%)	2 (6.1%)	0	0
「ある/あった」	10 (9.5%)	35 (29.2%)	8 (24.2%)	14 (26.9%)	13 (37.1%)
「いらっしゃる」	0	6 (5.0%)	0	5 (9.6%)	1 (2.9%)
「いらっしゃった」	0	4 (3.3%)	1 (3.0%)	3 (5.8%)	0
「ル形」	0	22 (18.3%)	5 (15.2%)	10 (19.2%)	7 (20.0%)
その他	15 (14.3%)	11 (9.2%)	1 (3.0%)	4 (7.7%)	6 (17.1%)

場面8と場面9を対照させて見ていく。「電話が」の提示がない場面8では、日本語母語話者も中国語母語話者も名詞の「電話」を使用している。それに対して、場面9では「電話が」の提示があり、日本語母語話者が多数「入っています」のような「テイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者は「ある」や「タ形」の使用が「テイル」より多かった。

このように、場面5～9までは日本語母語話者と中国語母語話者の間で、「結果の状態のテイル」の使用にギャップが存在している場面である。次の場面10では、日本語母語話者が「テイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者の間では異なる使用が見られた。

【場面10】あなたが友人とバスに乗ったら、一番後ろに誰もいませんでした……

あなた：「あ、後ろ_____」

友人：「ラッキー」

表10 場面10の調査結果

表10	J105名	C120名	C1級33名	C2級52名	C3級35名
「テイル形」	96 (91.4%)	49 (40.8%)	20 (60.6%)	22 (42.3%)	7 (20.0%)
「タ形」	0	7 (5.8%)	2 (6.1%)	4 (7.7%)	1 (2.9%)
「テ形」	0	1 (0.8%)	0	0	1 (2.9%)
「ある/あった」	0	47 (39.2%)	10 (30.3%)	22 (42.3%)	15 (42.9%)
「ル形」	0	1 (0.8%)	0	0	1 (2.9%)
その他	9 (8.6%)	15 (12.5%)	1 (3.0%)	4 (7.7%)	10 (28.6%)

場面10では、日本語母語話者が「空いている」という「テイル」を使用しているのに対して、中国語母語話者は「空いている」の「テイル」と「席がある」の「ある」を半分ずつ使用している。

3.3. 分 析

以上の結果をまとめると、本調査では、「結果の状態のテイル」と「ある/いる」の使用について、中国語母語話者と日本語母語話者がほぼ一致している場面と異なっている場面があることが示された。

まず、使用傾向がほぼ一致した場面について理由を考えてみる。場面1と2は、中国語では「停車場有一个可疑的人」(駐車場に不審者がいる)「有蛋糕」(ケーキがある)のように「有」で表すため「ある/いる」の使用につながる可能性が大きいと思われる⁷⁾。場面1と2において、日本語でも中国語でも「存在」を表す「ある/いる/有」を使用する理由は、「不審者」や「ケーキ」のような「具体物の存在」が目の前に現われたためであろうと考えられる。

他方、場面3と4では、「電気がついている/電灯亮着」「ドアが開いている/門开着」のように

日本語でも中国語でも「ものの状態」を表している。これらの場面では、「電気」や「ドア」のような「具体物の存在」の有無は問題にならない。そのため、学習者も「ある/いる」と迷うことなく「テイル」を使用することができるようである⁸。

次に、使用傾向が異なった場面について理由を考えてみる。場面5~9は、中国語では「有客人（客がいる）」「有信（手紙がある）」「有钱包（財布がある）」「（有）電話（電話がある）」のように「有」を使用する場面、あるいは使用しても不自然ではない場面である⁹。これらの場面で、学習者の「ある/いる」の使用が多いのは、母語の語感では「有」の使用に違和感がなく、「結果の状態のテイル」が意識に上らなかつたためであると考えられる。「電話」の例を除いて、「今家に客がいる」「今ここに手紙がある」「今日の前に財布がある」も、「具体物の存在」が目の前に現れたため、その「存在」の部分を使うだけでよい。そのため、学習者は「結果の状態のテイル」を使用する必要性を感じないであろう。

場面10は中国語では「後面空着（後ろは空いている）や「後面有座位」（後ろに席がある）のように、「状態」と「座れる席の存在」のどちらも表現できるため、中国語母語話者の間でも異なる使用傾向が見られたと考えられる¹⁰。

4. 考 察

4-1. 使用傾向が異なった場面の特徴

本調査の目的は、どのような種類の「結果の状態のテイル」が「ある/いる」との使い分けで問題になるのかを提示することである。そこで、母語話者と学習者の使用傾向が異なった場面を考察する。

7 「この場面では中国語で何と言うか」という問題を確認するために、同時期に調査対象者とは別の中国語母語話者19名に調査を行った。本調査と同じ場面を提示し、中国語の発話を記入してもらった結果、場面1では16名が「有（+不審者）」を使用し、場面2では13名が「有（+ケーキ）」を使用していた。

8 中国語母語話者19名の調査結果によると、場面3では10名が「着」を使用し、意外に4名が「有」を使用している。「有」を使用している4名の回答の詳細をみると、2名が台湾語の影響を受けているのか「灯有亮/有亮灯」（電気がついている）を使用し、他2名が「有灯光/有灯」（あかりがある）を使用している。後者の場合は「あかり」というものが存在しているため中国語の「有」の使用につながるのではないかと考えられる。本調査では120名の学習者のうち、1名が「ある」を使用している（表3参照）が、それも台湾語の影響で「あかり」の存在を言っているのかは判断できない。さらに、中国語母語話者19名は、場面4では「着」を使用していない。中国語では場面4のような場合はドアの「開いている」状態を言ってもいいが、それよりも「ドアはどうして開いたの？」のような「変化」を言うほうが一般的である。

9 中国語母語話者19名の調査結果によると、場面5では15名が「有（+お客さん）」を使用し、場面6では6名が「有（+手紙）」、13名が「信」（手紙）を使用している。場面7では9名が「有（+財布）」を使用し、場面8では3名「有（+電話）」、13名が「電話」を使用している。場面9では6名が「電話」を使用し、「有」の使用はなかった。場面9において、中国語では「客户找你」（得意先が社長を捜している）と言うのが一般的である。

10 中国語母語話者19名の調査結果によると、場面10において6名が「有（+席）」を使用し、「空着」（空いている）の使用はなかった。

使用傾向が異なった場面5~10を見ると、2つの特徴が挙げられる。1つは、場面5~10の日本語の動詞（「来る」「落ちる」「入る」など）は「移動」を表す動詞であるということである¹¹。

このような特徴から、次のようなことが考えられる。中国語母語話者にとって、「移動」を表す動詞の「結果の状態のテイル」は、「変化の結果の持続」という概念より、むしろ「存在」のほうに近い。そのため、中国語を母語とする日本語学習者は「移動」を表す動詞の「結果の状態のテイル」が非用となる可能性が高いと考えられる。これは「結果の状態のテイル」を教えるときに着目すべき点の1つであろう。

もう1つの特徴は、使用傾向が異なった場面は、場面10を除いて、中国語の構文の分類から言えば「出現あるいは消失」を表す「隠現文」でも表現できる場面であるということである¹²。例えば、場面5は「家裡来了客人」（家にお客さんが来ている）、場面6は「信箱裡来了信」（郵便受けに手紙が来ている）、場面7は「地上掉了一个钱包」（地面に財布が落ちている）、場面8と9は「○○来了电话」（○○から電話がかかってくる）と表現できる¹³。そして、正確に言うと、これらの文は「出現」を表すため、「隠現文」の中の「出現を表す文」（以下「出現文」と呼ぶ）にあたる。

しかし、「隠現文」の中の「出現文」で表現できるということは何を示唆するのであろうか。この疑問は、なぜ「移動」を表す動詞の「結果の状態のテイル」が中国語の語感では「存在」に近いのかという問題とつながっていると考えられる。

4.2. 中国語の「存現文」との関わり

中国語には（人・事物の）存在と、出現あるいは消失を表す「存現文」という構文がある。存現文は「存在文」と「隠現文」に分けられている。両者は構文上「場所語句+動詞+名詞」のような似ている部分がある。また、意味上「隠」（消失）は「存在する→存在しない」、 「現」（出現）は「存在しない→存在する」を表すため、「出現・消失」と「存在」は切っても切れない関係にある。このように、構文と意味の類似関係があるため、両者は「存現文」という1つの構文タイプになるのではないかと考えられる。

存在文：場所語句+動詞+名詞（存在する事物）¹⁴

- ① 桌子上有一本书。（机の上に本が一冊ある。）
- ② 桌子上是一本书。（机の上は一冊の本だ。）

¹¹ 場面10の「空く」は、「座れる席が出現する」と解釈すれば、広い意味で「移動」と見なすことができると考えられる。

¹² 刘・潘・故（1991）では、「隠現文」を「（人・事物の）出現或いは消失を表す文」と呼んでいる。

¹³ 「地上掉了一个钱包」という文で表す事象は「存在」であるため、「存在文」に属すると考えられるが、刘・潘・故（1991）に挙げられている「隠現文」の文法的特徴（4-2.を参照）から考えると、「出現」の事象として捉えることも可能であるため、本稿では「隠現文」として取り扱っておく。

¹⁴ 構文の提示と①~⑥の例文と訳文は刘・潘・故（1991）より引用した。

- ③ 桌子上放着一本書。(机の上に本が一冊置いてある.)

隠現文：時間語句/場所語句+動詞+名詞 (出現或いは消失した事物)

- ④ 前面来了一个人。(向こうから誰かが一人やって来た.)
 ⑤ 昨天發生了一件大事。(きのう大きな事件が起こった.)
 ⑥ 伝説一年冬天, 某村附近来了一只大老虎。(言い伝えによれば, ある年の冬, さる村の付近に一匹の大虎がやってきた.)

今回の調査において日中母語話者間で使用傾向が異なった場面に使用された動詞の中で, 特に「落ちる」「来る」に注目したい. それぞれに対応する中国語の動詞「掉」「来」は, 「隠現文」の使用に適していると指摘されている¹⁵. 刘・潘・故 (1991) では, 「隠現文」の文法的特徴は, 述語動詞がふつう自動詞であり, またその多くは「走」(歩く), 「落」(落ちる), 「来」(来る), 「跑」(走る), 「掉」(落ちる/落とす)等の人体や物体の移動に関わるものや, 「生」(生まれる), 「死」(死ぬ), 「出現」(出現する), 「爆発」(爆発する), 「発生」(発生する)等であるとされている.

「隠現文」が表す事象は「出現あるいは消失」であるが, ここでは特に「出現文」が表す事象に注目したい. 人や事物の「出現」の事象が結果的に「存在」になると捉えることができる. そのため, 結局存在を表す「存在文」で表現するようになるのではないだろうか.

「地上掉了一个钱包」「家裡来了客人」などのような「出現文」が, 結果的に「存在文」で表す事態「地上有一个钱包」「家裡有客人」になるため, 中国語母語話者は, 「存在文」の「有～」を使用し, 日本語でも存在を表す「ある/いる」を使用するのではないだろうか.

〈場所語句〉	+	〈動詞〉	+	〈名詞〉
出現文：家裡 (家に)		来了 (来た)		客人 (お客さん)
存在文：家裡 (家に)		有 (いる)		客人 (お客さん)

張 (1991) や于 (2006, 2007) は, 中国語の「存在文」の発想から, 日本語の「場所に 名詞が 動詞テイル」との関わりを考えている. しかし, 本研究では, 日本語の「場所に 名詞が 動詞テイル」と「隠現文」の中の「出現文」も関わりがあるのではないかということを描した. 「出現文」が意味する「出現」は「変化」としても捉えられる. そして, その結果としての「存在」を含めて考えると, まさに日本語の「結果の状態のテイル」が意味する「変化の結果の状態」なのではないだろうか.

また, 前述のように, 張 (2006, 2008) では, 日本語の「向かい側の川土堤を農婦が一人, 鋤をかついで歩いていた」のような動作の進行を表す「存在場所を 存在主体が 動詞テイル」も存在表現として挙げられている. しかし, 本研究では, 「存在表現」として捉えやすく, かつ,

¹⁵ 場面9においては, 中国語では「隠現文」を使用するなら「入る」に対応する動詞「(進)入」を使わずに「来」を使用する. 例えば「(客户)来了電話」(「客户」得意先).

学習者を悩ませる「結果の状態のテイル」を、日本語教育では「ある/いる」の「類義表現」として着目したい。

5. まとめと今後の課題

本研究では、調査を通して、中国語母語話者と日本語母語話者の「結果の状態のテイル」と「ある/いる」の使用には一致しているところもあるが、「移動」を表す動詞を使用する場面では不一致が見られることが示された。したがって、中国語母語話者に「結果の状態のテイル」を教える際は、「移動」を表す動詞の「結果の状態のテイル」が「ある/いる」の「類義表現」として取り扱われてもよいと考えられる。また、日本語の「結果の状態のテイル」は、中国語の「存在文」との関わりがあるだけでなく、「隠現文」の中の「出現文」とも関わりがあることが示唆された¹⁶。

しかし、今回の調査で用いられた「移動」を表す動詞は限られているため、すべての「移動」を表す動詞の「結果の状態のテイル」が中国語の「有」で表現できるとは断定できない。今後は他の「移動」を表す動詞も検証する必要がある。また、中国語の「有」の使用場面と比べると、日本語の「ある/いる」は意外に使用場面が限られるようである¹⁷。日本語ではどのような文脈で存在の経緯が無視されるのかを検討する必要がある。また、例えば「お客さんが来ている」と言うが「不審者が来ている」とは言わないように、なぜ場面によって変化の経緯を含蓄する「テイル」表現が使用されたりされなかったりするののかということも検討する必要がある。以上のように、「ある/いる」と「結果の状態のテイル」との使い分けは今後さらに解明しなければならない課題であろう。

参 考 文 献

- 于 康 (2006) 「日語的処所動詞与存現句」北京外国語大学国際交流学院 (編) 『漢日語言対比研究』7, 學苑出版社, 1-10
- (2007) 「日本語の存在構文とその存在構文からみた動詞の意味と構文の意味とのかかわり」『国文学攷』192・193 合併号, 広島大学国語国文学会, 1-13
- 許 夏珮 (2005) 『日本語学習者によるアスペクトの習得』, くろしお出版
- 国広哲弥 (1967) 『構造的意味論——日英両語対照研究』, 三省堂
- 張 麟声 (1991) 「中日様態存在表現の対照研究」『月刊言語』20-7, 大修館書店, 76-83
- (2001) 『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例——』, スリーエーネットワーク
- (2006) 「現代日本語の存在表現」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎 (編) 『日本語文法の新地平1 形態・

¹⁶ 「隠現文」の中の「消失文」が、日本語の「結果の状態のテイル」と関わりがあるかどうか、あればどのように関わるのかについては、本稿では論じることができなかった。

¹⁷ 中国語の「有」は地域によって使用される意味範囲が異なるようである。

- 叙述内容編』、くろしお出版、69-82
- (2008) 「日本語と中国語の存在表現について」 日中言語対照研究会 (編) 『日中言語対照研究論集』 第10号、日中言語対照研究会、白帝社 (発売)、17-30
- 陳 昭心 (2007) 「中国語を母語とする日本語学習者のためのテイル形の『類義表現』の研究—存在表現『ある/いる』との対立を中心に—」 『國立臺中技術學院應用日語系 2007 年國際學術研討會—語言學習與心理—會議論文集』、國立臺中技術學院應用日語系、165-180
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版
- 野村剛史 (2005) 「存在の様態—シテイルについて—」 京都大学文学部国語学国文学研究室 (編) 『國語國文』 72-8、中央図書出版社、1-20
- 藤井 正 (1966) 「『動詞+ている』の意味」 金田一春彦 (編) 『日本語動詞のアスペクト』 (1976) 再録、むぎ書房、97-114
- 刘 月華・潘 文娛・故 群 (著) 相原茂 (監訳) 片山博美・守屋宏則・平井和之 (共訳) (1991) 『現代中国語文法総覧 (下)』、くろしお出版

[用 例 出 典]

- 足立章子・梅田康子・亀田仁・齋藤伸子・斉藤裕美・鶴田優 (2004) 『絵で導入・絵で練習』、凡人社
- 吉住 渉 (2003) 『ハンサムな彼女』 1、集英社文庫 (コミック版)